

世の中には様々な職業がありますが、試験に合格後、登録費等を納めて資格を取得し、さらに講習を受講してはじめて職業人としてのスタートラインに立つことができ、プロゴルファーとして活躍しています。

A氏は十代の頃、プロテストの受験資格を取得できる権利を勝ち取ったのですが、師匠へ報告した際、お祝いの言葉ではなく、理不尽な言葉を掛けられ、プロテスト受験を諦めることになってしまったのです。

A氏（のちにプロライセンス取得）は、「なぜそんな理不尽なことを言うのか」と納得できませんでした。しかし、「師匠の言葉は絶対」と先輩から教えられていたので、「はい、分かりました」と返事をしました。

そして、A氏はこの件がきっかけで、長年住み慣れた故郷を離れる決断をしたのです。その後、父の知り合いのゴルフ場関係者を通して、ある企業のB会長の特別な口添えで、故郷から遠く離れたゴルフ場に就職し、プロを目指す環境が整いました。

死に物狂いで練習に励み、五年後、プロテストに合格しました。しかし、喜びも束の間、「合格までの契約なので、解雇とします」という通告を受けたのです。

退職後の数カ月間は、貯金を切り崩して生活していましたが、B会長から再び声がかかり、他のゴルフ場への所属契約の話が頂くことになりました。この時期に、プロゴルファーとしての夢を掴みかけ、試合に出場しながら賞金も稼ぎ出せる状況になり

受け入れることから 奇跡は起きる



ましたが、ゴルフ場の支配人から「今後もトーナメントプロとして挑戦し続けるのかね」と問われ、A氏が「挑戦し続けます」と返答すると、ゴルフ場の規程から外れ、解雇されることになったのです。

A氏は再度の解雇通告を受けて途方に暮れましたが、「捨てる神あれば拾う神あり」を感じる出来事が起きました。今まで全く接点がなかったゴルフ界のレジェンドであるCプロとの縁が生まれたのです。多くのプロゴルファーの中からA氏が選ばれ、新規オープンするゴルフ場の所属プロとして契約してもらえ、ことになりました。

不断の努力と誠意ある行動を心がけてきたことで関係者の信頼を得て、安定した生活を送ることができるようになりました。感謝の気持ちを忘れず練習に集中した結果、オープン競技で立て続けに優勝し、連覇も果たすことができました。

その後は、怪我に見舞われ結果を出すことができず、徐々にトーナメント出場機会が減りましたが、師匠Cプロの知人のゴルフジャーナリストから、某民放で放映されていたトーナメント中継の解説の仕事が依頼され、その後二十五年も勤めるという有意義な経験がすることができたのです。

理不尽な言葉を掛けられたり、度重なる解雇があったりしても、その都度「はい」と受け止め、誠心誠意を尽くして対応してきたA氏。そうした行動が周囲に好印象を与え、最終的に幸運を掴み取ることができたといえるのではないのでしょうか。